

○ 本校の概要

・昭和8年開校、今年度開校85周年目を迎える。平成26年度から校舎改築に向け基本構想・基本計画を策定。平成29年度より新校舎建設工事（第1期）開始。平成31年度新校舎（第1期）供用開始予定。 ・平成24・25年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定。「学び、かわり、自己を高める子の育成」（生活科・総合的な学習の時間を通して）を研究主題とし、地域を生かした学習活動を展開し、現在もスクールサポート大四と連携を図り、継続して推進している。 ・平成26・27年度東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育推進校（研究開発校）に指定。「自己肯定感を高める指導の工夫」（すすんでかわり、自己のよさを発揮できる子の育成）を研究主題とし、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催と関連を図った学習内容の開発について研究を推進した。令和元年度からは研究主題を「学習問題をすすんで追及したり解決しようとしたりし、社会的な見方・考え方を育む指導の工夫」とし、生活科・社会科「問題解決学習」を通して思考力・判断力を高める指導を行い、合わせて基礎学力の向上に取り組んでいる。 ・平成28年度より校舎改築を行い、平成31年4月に1期校時竣工、新校舎へ移転した。外構工事まで含めた完工は令和3年6月を予定している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者からの意見
プラン1 未来社会を創造的に生きる	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	4 94.8%	・低学年は大田区外国語活動として年8時間、年35時間の外国語活動、高学年は50時間の外国語を行った。放課後には「英語カフェ」を行い、ALTと英語でコミュニケーションを取る経験を積ませた。新学習指導要領実施に伴い、児童が英語に慣れ親しんだりすすんでコミュニケーションが取れたりできるよう指導の工夫をする。 ・タブレットの台数増加や特別教室への大型モニターの導入等により、ICTの使用が日常的になり、授業の工夫・改善を進めている。 ・改築に伴い校庭使用に制限があり、体育朝会を低・中・高学年に分けて行う、近隣施設を活用する等、運動量の確保に努めている。次年度は12月から校庭使用不可となるので、年間指導計画の見直し、一校一取組・一学級一実践の内容の検討を行い、地域・保護者の体力低下の不安の解消に努める。 ・校内研究主題を「学習問題をすすんで追及したり解決しようとしたりし、社会的な見方・考え方を育む指導の工夫～生活科・社会科「問題解決学習」を通して～」として、年間7回の研究授業を行い、学習問題をつくり、解決に向けて主体的に取り組む、必要な情報を選択・判断し、考えたことをまとめるための授業の工夫や改善を行っている。	・改築に伴う制約もある中、工夫して進めている。 ・校庭が自由に使えない中、さまざまな工夫をこらして学習している。外国語は小さいときから学んだ方がいいと思う。ICT機器の利用もよいと思う。 ・ICTの使用を得意とする先生ばかりとは思えません。従って児童にも苦痛とする子も出てくることでしょう。機器使用時には本来の学習を見るだけでなく、上手に使いこなせているかどうかのチェックと必要となってくるのでは・・・1クラスに2人教員配置、または1クラスの人数を20人程度にするということを行政に求めたい。 ・コミュニケーションは重要なことです。英語だけではなく日本語も同じです。相手が何を言おうとしているのかを理解し、それに対し考え発言なり行動なりする訓練が重要です。 ・運動に関しては校庭が狭いので仕方ない部分があると思います。 ・問題解決や自己解決は大人側がそれを考えないと進みにくいと思います。大人側の工夫が必要と考えます。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	2:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			
		問題解決的な学習方法により、思考・判断力を育成するための授業改善を進めている。	1:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が95%以上である。	3 91.8%	・大田区学習効果測定の結果（学習カルテ）及び、算数ステップアップ学習状況等を基にして、夏季休業中に面談を実施し、児童の学習状況を児童と保護者に伝えている。効果的な家庭学習の方法について話をし、一人ひとりに計画を立てさせ取り組ませた。家庭学習を充実させるために、内容や保護者をお願いすることを示している。学年だよりにも、「家庭学習のすすめ」ということで、具体的な学習内容を毎月お知らせしている。今後も続けていく。 ・学習指導講師による補習は月・金曜日、土曜授業日、夏休みに区の基準を上回る回数実施し、児童に積極的に参加を促し学力の底上げに努めている。 ・授業改善推進プランを基に、夏季休業中にが学力向上研修会を実施し共通理解を図った。0層（学力下位層）の児童に対する具体的な指導の手立ての工夫や改善を進めていくとともに、0層の児童の底上げを図っていく。 ・算数の基礎学力定着のために「大四算数検定」（本校独自）と「大田区漢字検定」を年2回行っている。補充プリントを配布し、繰り返し問題に取り組ませることで、効果が上がっている。次年度も継続して取り組んでいく。	・家庭学習の習慣化が課題と思われるが、地域としても支援を検討したい。 ・算数などは、一度つまづくとその先に進めないのでステップ学習チェックシートはよいと思う。漢字も同様。補習も大いに実施してほしい。 ・問題はありません。 ・個別に面談を行い、保護者に直接伝えていくのは良いと思います。 ・基礎を鍛えるにはクラスの授業態度や姿勢が大事です。4月からは改善が見られました。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が90%以上である。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%以上である。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%未満である。			
		大田区漢字検定・大四算数検定等を目標とした、基礎的な学力の向上を目指す指導を行う。				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	4 94.5%	・「元氣にあいさつをしよう」を年間生活目標として取り組んだ。縦割班による朝の挨拶運動の実施等により成果が上がり、日常的に挨拶ができる児童が増えている。年4回の小中一貫教育の会（大森一中との教員研修）を通して、学習や生活ルールの共通理解を図った。今後共通して指導する内容を確認し、きまりやスタンダードに加えていく。併せて代表委員会で作成した「学習のルール十ヶ条」の指導も行っている。 ・道徳授業地区公開講座(6月)では道徳授業公開及び「豊かな心発表会」を行った。新学習指導要領の実施により「特別の教科道徳」となり、指導内容の充実や評価の仕方について研修会を行った。 ・学校生活調査(メンタルヘルスチェック)を実施し、児童の心の状況を把握し、スクールカウンセラー・サポートルーム・支援員等と連携を図り、面談を行った。次年度も継続実施・充実を図る。 ・学校いじめ防止基本方針を基に、今年度実施計画を策定し実践してきた。児童アンケート調査や面談を基に、いじめ問題の早期発見、早期対応に努めた。SNSに関するトラブル発生に対しては、その都度学校ルールの徹底を児童・家庭に呼びかけている。 ・問題行動に対して、ケース会議を随時実施し、対応を図ってきた。また、不登校児童については、スクールカウンセラー、登校支援員、子ども家庭支援センター、児童相談所等と連携を図り、取り組んできた。家庭内の諸問題に対しても関係機関と連携して児童の保護に努めている。 ・縦割班活動として、1学期はなかよし給食、2学期は子ども遊び集会、3学期はお別れ給食を実施。あいさつ運動、クラブ・委員会・吹奏楽部などを通して異学年児童相互の交流が深まっている。	・問題行動、不登校児童の対応について民政児童委員にも情報を開示し、地域との協力を検討して下さい。 ・5年生・6年生にリーダーとして下級生を引っばっていくような教育をしているのはよい。1～6年生でグループをつくり、一緒に行事を行うことは、リーダーを育てる、リーダーとしての自覚をうながす点でとてもよい。子供に寄り添い指導してください。 ・学校の外（登校や公園）ではあぶなっかしい姿を見ることもあります。社会のきまりは家庭でも伝えなくてはいけないので、両方で指導していく事がもっと自然になると良いと思います。 ・小学校(高学年での場合)での友達とのトラブルが中学校につながる事もあるので、高学年は特にきちんと解決に導くのが大切だと思います。 ・小中一貫という活動はピンときていません。どこまでできているか情報がほしいです。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		1～6年生の異学年集団による縦割班活動を通して、思いやりや協調性など豊かな心を育てる。				

プラン 4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を上回っている。	3	・5月と10月の「早寝・早起き・朝ごはん」推進月間では児童一人一人に「チェックシート」を配布・実践。今後も家庭に啓発していく。 ・毎日給食委員会の児童による昼の放送での献立の解説、各学級を巡回して栄養や食事のマナーなどのプレゼンテーションを行っており、食事や健康について考える機会をとっている。また、オリンピック給食の献立を工夫し、国際理解へとつなげた。今後も継続・充実させていく。 ・3学期には体育健康授業地区公開講座を予定しており、体育や健康について特別授業を行う。併せてオリンピック・パラリンピック教育も各教科の中に位置付けて、年間を通して実施している。 ・校舎改築に伴い、校庭の使用制限があるため、体育の年間指導計画や休み時間の校庭使用、体育朝会、近隣施設を活用した広い場所での運動の時間等、運動量を確保している。	・校庭が自由に使えないなかで、体力の維持、向上への努力はたいへんだっと思われる。給食も世界各国の料理を取り入れるなど工夫がみられる。子供たちと給食を食べる機会があったが、魚をきれいに食べたので感心した。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均とほぼ同様である。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を下回っている。			
		校舎改築の影響を最小限にとどめるよう運動量の確保に努め、体力向上に関する授業を実施する。体育・健康教育授業地区公開講座や保護者会、学級だより等で体力づくりの重要性やその方法を地域・保護者に向けて啓発を行う。	1:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を大きく下回っている。			
プラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	4 93.9%	・授業公開日の授業評価では、肯定的な評価もある一方で、様々な面での指摘もいただいている。落ち着いた学習環境を構築し、今後も校内研究授業や若手研修、OJT等を通して児童が主体的に学べるよう、そして基礎的な学力が身に付くように、教員一同授業改善に努めていく。 ・若手研修会では、学習指導、学級・学年経営、生活指導等、主任・主幹教諭が各回の課題について若手教員に指導・助言を行い、指導力向上につながった。 ・教育委員会の研修会や他校研究発表会に全教員が参加。資料は回覧・共有し指導に生かした。 ・特別支援教室(サポートルーム)の巡回指導教員と連携し、毎月定例的に校内委員会(たんぼぼ委員会)を実施し、特別な支援が必要な児童の把握と、その対応策についての検討した。次年度もさらに充実を図っていく。 ・校長・副校長による授業観察・指導を全教員年間3回実施。また、1～4年次教員の研究授業を実施し教員の指導力向上に努めた。若手教員がベテラン教員から日常的に学ぶOJTを推進し、学級経営力や指導技術の向上に努めている。	・授業公開に多くの保護者が来校し、教育に関心があることがうかがわれ好ましい。授業もさまざまな工夫をこらしている。 ・登校、下校に大蹴る校門の外について指導を強化してもらえたら。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			
		OJT計画を基に、研修の機会を多く設定し、教職員が互いに高め合うようにする。				
プラン 6 学校・家庭・地域が一体となつて	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	4 93.9%	・学校ホームページでは、移動教室や学校の教育活動を随時公開した。また、各学期1回の学校公開、学校行事、研究授業の公開等で学校の教育活動を公開するとともに、アンケートにより保護者や地域の方の声を集め、改善に努めている。次年度も継続・充実させていく。 ・地域連絡協議会開催日を学校公開日に合わせることで、児童の様子を見ての感想等を指導の改善に役立ててきた。また、日頃の教育活動や学力・体力等の状況について情報提供を行うことに努めた。今後も継続していく。 ・「学校支援地域本部(スクールサポート大4)」と全教員との打合せ会を年2回実施。生活科や総合的な学習の時間等における地域の人や施設・自然等と関連した学習、夏休み子どもクラブ、ふれあい交流会、海苔つけ体験等で、地域の教育力を積極的に生かした教育活動が展開できた。次年度も、地域力を生かした教育の一層の充実を図る。 ・PTA読み聞かせ部の協力により、児童に読書の楽しさを伝えることができた。 ・「学年×10分間」の家庭学習を推進し、保護者会や毎月の学年便りで家庭に啓発を図った。今後も継続していく。	・より一層の地域との連携を期待したい。 ・読み聞かせを実施しているそうで、よい。近隣に図書館があるので大いに利用してほしい。私も折にふれ図書館に行くが子供の姿が少ないのがさびしい。放課後、仲間で外で身体を動かしている子が多い。友人との遊びは勉強以上に社会性を育てると思うので大いに遊んでほしい。 ・学校にお任せの部分が多くなり、家庭での役割を保護者にはもう少し考えてほしい。 ・学校は教育活動を保護者へ伝えてくれています。保護者側が受け取っていない家庭が多いように思います。 ・スクールサポート、PTA、これは保護者、地域ですが、強化が必要ですね。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			
		地域や保護者による読み聞かせ等を実施し、家庭の教育参画意欲を高める。	1:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			
		毎日家庭で(学年×10分)の学習を推奨し、取り組む。				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。